



準早期水稻（夢つくし）管理情報 NO.2

JA 粕屋 HP

1. 生育概況

6月上中旬の気象は、平年と比較して平均気温は高く、降水量は多く、日照時間は少なくなりました。

6月24日の生育調査では、目立った病害虫の発生はなく順調に生育しており、茎数も十分に確保されていました。ただし、一部でジャンボタニシの食害を受けているほ場が散見されました。

2. 水管理

下表を参考にして、水稻の生育にあわせて水管理を実施してください。

タイミング	水管理	ポイント
中干し後～出穂1週間前	間断かん水	湛水→自然落水→湛水の繰返しを行いましょう。
出穂前後1週間	湛水	生育期間で一番水が必要な時期のため、水を切らさないようにしましょう。
出穂1週間後以降	間断かん水	この時期の根の活性が登熟に大きく影響するため、水を溜めっぱなしにしないようにしましょう。

高温障害（高温不稔、白未熟粒の発生）対策として出穂1週間前からの水管理が特に重要です。

この時期以降に落水状態が続くと稻が高温状態になりやすく、高温障害を助長するのほ場の状態を十分に確認してください。

3. 穂肥

下表を参考にして、基肥に使用した肥料に応じて穂肥を判断してください。

基肥に使用した肥料	穂 肥
基肥一発肥料 (Jコート2000、有機特栽米エムコート256号、有機エムコート355号など)	穂肥の必要はありません。 ただし、葉色が極端に薄い場合は、高温障害が生じやすくなるため、その際はJA 粕屋各プラザにご相談ください。
速効性肥料 (くみあい化成ベスト444、有機特栽米基肥O17号など)	NK化成2号 15kg/10a または 有機入特栽米追肥O47号 20kg/10a

穂肥は下表の生育タイミングを参考に施用してください。

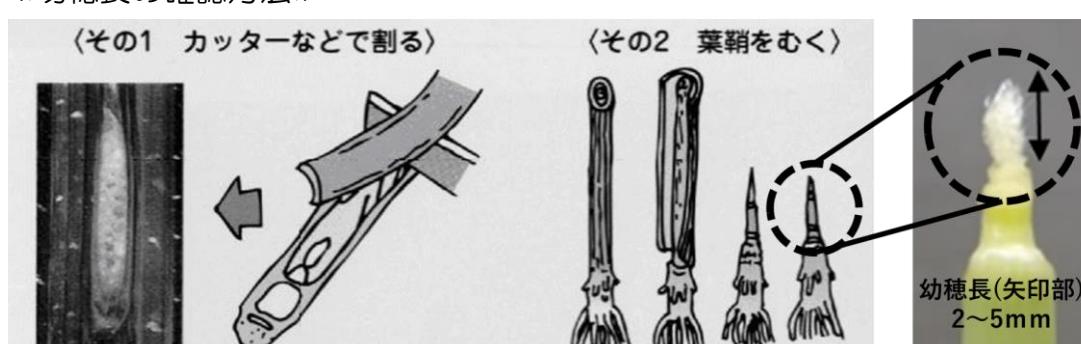
品種	葉色	幼穂長 (mm)	出穂前 日数	田植え時期別の施用時期の目安		
				田植え時期	穂肥時期	(参考) 平年出穂期
夢つくし	3.5	2~5	18~20日	5月18日頃	7月 4~6日頃	7月24日頃
				5月25日頃	7月 9~11日頃	7月29日頃
				6月 1日頃	7月 12~14日頃	8月 1日頃

※なたね油粕を使用する場合は、目安より施用を7~10日早め、施用量を30kg/10aとします。

※ほ場の地力、水稻の葉色に応じて穂肥の施用時期・施用量は調整して下さい。

※葉色が濃いほ場(4.0以上)は、施用量を減らすか施用を止めましょう。

《幼穂長の確認方法》



4. 病害虫防除

下記によりいずれかの体系で必ず防除してください。また、薬剤防除のほか、斑点米カメムシ対策として、出穂 14 日前の畦畔除草を徹底しましょう。

【基幹防除】

対象病害虫	防除適期	体系・農薬名	使用量(10aあたり)	使用時期
いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	出穂期～ 穂揃期	粉 ダブルカットバーリダ トレボン粉剤3DL	3～4kg	穂揃期まで
		液 (3剤混用) ダブルカットプロアブル モンセレソプロアブル エクシードプロアブル	[希釈水量 140ℓ] 140mℓ (1,000 倍) 93mℓ (1,500 倍) 70mℓ (2,000 倍)	穂揃期まで 収穫 21 日前まで 収穫 7 日前まで
		粒 (どちらかを散布) ゴウケツモンスター粒剤 ワイルドバーン豆つぶ	3kg 250g	<u>出穂 5 日前まで</u> <u>(但し、収穫 45 日前まで)</u> 収穫 35 日前まで

※ゴウケツモンスター粒剤の使用時期には、十分注意して使用するようにしましょう。

※粒剤は粉剤、液剤よりも 1 週間程度早めに散布しましょう。

(ウンカ類、カメムシ類を対象とする場合 (イネカメムシ対策はページ下部参照))

対象病害虫	防除適期	体系・農薬名	処理量(10aあたり)	使用時期	使用回数
ウンカ類 カメムシ類	出穂期～ 穂揃期	粉 エクシード 粉剤 DL	3kg	収穫 7 日前まで	3 回以内
		液 エクシード プロアブル	[希釈水量 140ℓ] 70mℓ (2,000 倍)		
		粒 スタークリーク粒剤	3kg		3 回以内

※粒剤は粉剤、液剤よりも 1 週間程度早めに散布しましょう。

※殺虫剤(粉剤・液剤)を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稻の開花期の散布は避けてください。

用語の説明

「出穂期」：全茎数の 40～50% が出穂(止め葉の付け根から穂先が出現)した日

「穂揃期」：全茎数の 80～90% が出穂(止め葉の付け根から穂先が出現)した日

【補正防除】

基幹防除のみでは病害虫の発生が抑制できない場合は、栽培こよみ掲載の補正防除を検討しましょう。

近年、特に増加しているイネカメムシは水稻品種にかかわらず収量・品質に大きく影響を及ぼしているため、ほ場を十分確認し、発生が認められた場合は防除を実施しましょう。

《イネカメムシについて》

特徴	・成虫の体長は 12～13mm、幅 5～6mm で体色は茶褐色	要注意！
生態	・雑木林等の越冬地から出穂前後の水稻に飛来し、水稻の穂を吸汁 ・出穂の早い品種から遅い品種へ移動し、被害を及ぼす	
被害	・出穂期に被害にあった場合、不稔粒が発生し収量が低下 ・乳熟期に被害にあった場合、斑点米が発生し品質が低下	
対策	・「出穂期」と「出穂期の 14 日後」の 2 回防除が基本 ※粒剤は効果発現に時間を要するため上記の 1 週間前に施用 ・防除薬剤は「エクシード剤」か「スタークリーク剤」を使用	



イネカメムシ

※殺虫剤(粉剤・液剤)を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稻の開花期の散布は避けてください。

農薬安全使用のポイント

- ①散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ②散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ④防除履歴を記帳しましょう
- ⑤散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょう